

2011-4

学会通信

平成 23 年 4 月 3 日

工業経営研究学会

NO.71

Association for the Study of
Industrial Management (Japan)

第 26 回 全国大会について

〔主催校挨拶〕

このたびの東日本大震災にて被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

今年の全国大会は、4 年ぶりに大阪府下で開催いたします。摂南大学では第 10 回大会以来の開催となります。

学会の全国大会は会員の研究発表や情報交換の貴重な機会です。このたびの震災は関西地域の日常生活や経済活動にも少なからず影響を及ぼしていますが、今のところは大会の開催について大きな支障はなさそうですので、粛々と準備を進めてまいります。

さて、本学会貫隆夫会長の方針は「時代に応え、時代と闘う工業経営研究を目指して」ですが、この 3 年間の製造業を取り巻く環境変化は非常に大きく、危機管理を含め様々な課題が増えつつあります。そこで、本大会の統一論題は「変革の時代に応える工業経営研究の確立」とし、具体的には以下のような「時代と闘う」対象となる課題について論じていただく予定です。

- ① 90 年代の企業のコア・コンピタンスと言われた時代から、現代のコンテンポラリー・ケーパービリティへと、時間軸が短縮し、変革のスピードとの闘い
- ② グローバル化をもたらす国内空洞化と雇用の確保
- ③ デジタル化による技術や経営の世界的な均一化とそれによる労働の未熟練化
- ④ 社会の不安定、とりわけ失業や格差社会をもたらす若者の不満
- ⑤ 人材育成、とくに工学部不人気や大学教育のミスマッチ
- ⑥ 日本の強みである高品質経営はグローバル化の中では評価が揺らいでおり、それと闘う（挑戦する）新たなものづくりの求心力

上記のように闘う対象は幅広く、したがって本大会では「何が問題なのか」という闘う具体的な対象について、焦点を絞り込めるような報告、議論ができればと考えております。

見学や特別講演は、決して大きくはありませんが、独創的な技術・経営で有名な関西の中堅企業を予定しております。多数の会員の研究報告やご参加をお待ちしております。

第 26 回全国大会準備委員会委員長 黒澤敏朗（摂南大学）

- ・大会日程 2011 年 9 月 2 日（金）～4 日（日）
 - 9 月 2 日（金） 見学会（(株)イシダ 滋賀事業所）、理事会
 - 9 月 3 日（土） 自由論題報告、特別講演（ホソカワミクロン（株）、ほか）
会員総会（理事選挙を含む）、懇親会、理事会
 - 9 月 4 日（日） 統一論題報告・シンポジウム、研究分科会、理事会
- ・大会会場 摂南大学寝屋川キャンパス
（大阪府寝屋川市池田中町 17-8、京阪電鉄本線寝屋川市駅よりバス 11 分）
- ・統一論題 「変革の時代に応える工業経営研究の確立」

第 26 回 全国大会 報告者募集

統一論題と自由論題の報告者を募集します。

(1) 報告者応募の締め切り 5月31日(火)

応募者多数の場合は大会準備委員会で選考させていただきますので、ご了承ください。

応募内容（原則として、メールで送付してください）

① 報告タイトル

② 報告者氏名・所属

（共同報告の場合は報告者すべての氏名、所属を明記のこと）

③ 報告要旨（400字程度、キーワード5つ、書式は自由）

(2) 大会予稿集原稿の締め切り 7月30日(土) 必着

報告者には、報告依頼文書とともに原稿執筆要領を6月上旬にお送りします。

応募先 摂南大学経営学部 黒澤敏朗研究室

〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町 17-8

Tel:072-839-9174、E-Mail:kurozawa@kjo.setsunan.ac.jp

海道進先生のご逝去を悼む

工業経営研究学会会長 貫 隆夫

海道進先生（神戸大学名誉教授）が今年(2011年)2月19日にご逝去されたとの知らせを片岡信之会員から受けました。享年88歳であられました。海道先生は経営労働、労使関係を中心とするドイツの工業経営研究の碩学として本学会の設立に際しても多大な貢献をされた方であり、発足の理事として、また近年は名誉会員として学会の活動を見守ってこられました。本学会としてこれまで海道先生から受けたお力添えに対し深甚なる感謝の意を表するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

先生は本学会が設立される以前から日本経営学会の重鎮として私達にとって輝かしい光を放つ先達でありました。とりわけ旧西独のみならず、旧東独の経済・経営状況に関する長年のご研究を通して批判経営学の中心的な推進者の一人でした。私は本学会による工場見学の一環として、「ロボットがロボットを作る工場」として知られる、山梨県忍野にある富士通ファナック(当時、現ファナック)の見学に参加した際、見学に備えて前泊した宿で畏れ多くも海道先生と二人部屋の同室になったことがあります。その時はすでにベルリンの壁が壊され、国家としての東独が消滅した後でしたが、海道先生は、旧東独は公共交通の料金など生活費が低く抑えられていたのに対し、東西ドイツの統合後は物価上昇により旧東独庶民の生活が厳しくなっていること(具体的な料金を示されたのですが今は思い出せません)、旧東独ひいては旧ソ連圏の解体を単純に社会主義の敗北、資本主義の勝利と片付けてはならないことを熱く語っておられました。この海道先生のお話を聴きながらも私は「そうは言っても旧東独の消滅、西ドイツとの統合は東独国民自身が自ら選んだ道ではなかったのか」という質問を心の中に抱きながら、しかし大先達の議論に水を差すようなことも憚られてほとんど聞き役のみで終わりました。今となっては、せつかくの相部屋の機会を活用してもう少し遠慮なく質問をしていればよかったと後悔しています。

市場経済のグローバル化と資本主義との関係をどう見るかは様々な立場があり得ますが、アラブ世界の激変の背景にある世界的な高失業率の中での格差拡大や、原子力発電の放射線リスクと抱き合わせのエネルギー供給、地球環境の温暖化リスクなど、我々の世界は克服すべき多くの難問に直面しています。海道先生であればどのような指針を示されるだろうか、という問いはこれからも時々私の中で繰り返される設問であろうと思います。

6月4日に神戸大学六甲台学舎で海道進先生を偲ぶ会が催されると片岡先生から伺っております。工業経営研究学会を代表して出席するつもりです。(2011年3月21日記)

(海道先生を偲ぶ集い)

次のような予定となっています。関係各位には、改めてご案内が届くと思います。

日 時：2011年6月4日(土) 12:00~15:00

場 所：神戸大学六甲台学舎 レストラン「さくら」(六甲台アカデミア館 3階)

「学会賞・研究奨励賞」候補推薦について(お願い)

学会賞・研究奨励賞選考委員会
委員長 表 秀 孝

2011年度の学会賞・研究奨励賞について、2011年6月17日(金)までに学会賞・研究奨励賞候補作品の募集を行い、その後対象作品について選考委員会で選考を行いたいと考えております。つきましては、学会賞・研究奨励賞候補作品を会員の皆様にご推薦(自薦を含む)頂きますようお願い申し上げます。

なお、学会賞及び研究奨励賞について、工業経営研究学会内規は以下のように定めています。

1) 学会賞

対象者： 全会員

候補作品： ① 本会学会誌及び他誌掲載の会員単独又は会員共同論文、会員単著、及び会員編著(但し、執筆者の過半数が会員であること)

② 候補作品の発表時期の期限は受賞年から数えて過去4年以内とする。

受賞者数： 2名以内

受賞制限： 受賞者は4年を越えなければ再受賞できない。

2) 研究奨励賞

対象者： 10月1日現在、満39歳までの会員

候補作品： 特定した課題について過去の一連の業績とし、かつその中に本学会発表論文を含むもの。

受賞者数： 2名以内

受賞制限： 受賞者は3年を越えなければ再受賞できない。

学会賞及び研究奨励賞のご推薦・ご応募は、選考委員会委員長 表秀孝宛に対象作品を添えてお送り下さいますようお願い申し上げます。会員の皆様のご協力・ご支援を心からお願い申し上げます。

3/11 理事会議事録

3月11日に行われた東日本部会の工場見学・インタビュー終了後、神奈川工科大学エクステンション・センターにおいて午後4時から午後6時まで以下のような報告・審議事項をめぐって理事会を開催した。

1) 海道 進先生ご逝去の件について

貫会長より、6月4日に「海道 進先生を偲ぶ会」(神戸大学六甲台学舎)が開催される旨説明があり、会長が学会を代表して出席することが承認された。また4月発行予定の「ニュースレター」に会長の追悼文を掲載することも併せて報告され、承認された。

2) 第26回全国大会について

地代副会長より、2011年度の第26回全国大会(摂南大学・寝屋川キャンパス)開催について、大会日程と統一論題テーマ「変革に應える工業経営研究の確立」の報告があり、審議の後承認された。なお、今後の全国大会開催校についても意見交換がなされた。

3) 新入会員・退会会員の承認

風間副会長より、2010年12月末までの新入・退会会員の報告があり、14人の入会と18人の退会が承認された。

4) 2010年度決算について

風間副会長より、2010年度決算について報告があり、審議の後承認された。なお、次期繰越金は、当初の787,468円から1,236,999円になった。

5) 2011年度予算について

風間副会長より、2011年度予算について報告があり、2010年度決算での次期繰越金が当初の787,468円から1,236,999円になったことから、その変更を内容とする2011年度予算補正が提案され承認された。

6) 学会賞・研究奨励賞候補者拡大について

貫会長より、学会賞・研究奨励賞候補の拡大について説明があり、理事を中心として候補作品情報を委員長の表先生に寄せてもらう依頼を行うとともに、学会誌ニュースで会員にも広く広報を行うことが承認された。

7) 論文審査運営委員会委員長交代について

貫会長より、標記委員会委員長が関東学院大学の池内守厚先生から北海学園大学の大平義隆先生に交代することが説明され、承認された。

8) 学会誌頒布に関する内規について

これまで事務局に学会誌の頒布について要請がなされてきたが、頒布価格について明確な基準はなかった。今後、そうした頒布希望の要請がさらに出てくる事態が想定されるため、頒布価格を定めておく必要があるとの判断に立って、会員と非会員との公正性の観点から①事務局保存用の3部を残して希望者に学会誌を販売することとし、②その頒布価格(送料込)は院生会員の年会費(4千円)とすることを柱とする内規改正について地代副会長より提案があり、審議の後承認された。

(参考)

東日本大震災を引き起こしたマグニチュード9.0の大地震後の余震のなかでの理事会であり、会場としてお借りした神奈川工科大学エクステンション・センターの壁には、多くのひび割れが見られた。理事の多くは帰宅難民となり、避難所(中学校体育館)や喫茶店で一夜を過ごすことになった。

会員の異動

会員数(2011年3月現在)

総会員数 : 310名 (名誉会員 : 4名、正会員 : 260名、院生会員 : 46名)

新入会員(計3名)

- ・正会員(計2名) 蔡 櫻鈴(台湾 国立暨南国際大学)、魏 聰哲(中華經濟研究院)
- ・院生会員(計1名) 藤本 寛人(大阪市立大学大学院)

逝去会員(計1名) 海道 進(神戸大学)

退会会員(計8名)

- ・正会員(5名) 洪 徳俊、福永 厚(北海学園大学)、山崎 茂(大阪府立産業開発研究所)
原田 実(九州大学)、宮城 徹(駒澤大学)
- ・院生会員(3名) Meiling Wong(台湾 東海大学)、張 健(関西大学大学院)
林 曼誦(台湾 東海大学)

2010年度 工業経営研究学会決算 (2010年1月1日～2010年12月31日)

収入の部	予算額	備考
会費収入	2,307,790	※1
著作権収入	18,495	
利息収入	901	
その他の収入	42,000	※2
小計	2,369,186	
前期繰越金	2,378,468	
計	4,747,654	

支出の部	予算額	備考
学会事務委託費	335,022	学協会サポートセンター委託料他 ※3
全国大会補助費	250,000	
地方部会補助費	70,560	
分科会補助費	0	
理事会費	34,530	
各種委員会業務費	0	
学会誌発行費	856,800	第24巻発行費
名簿作成積立金勘定繰入	50,000	
郵便通信費	168,535	会費・ニュースレター・工業経営研究等 ※4
賞典費	78,040	
事務局費	18,902	
振込費(銀行振込手数料)	7,521	
印刷費	58,015	ニュースレター印刷費 ※5
20周年記念出版事業	1,052,730	
特別事業積立金勘定繰入	500,000	
経営関連学会協議会年会費	30,000	
予備費	0	
小計	3,510,655	
残	1,236,999	
計	4,747,654	

※1 正会員 270人×8千円≒2,145,400円 院生会員 15人×4千円≒196,000円

計 285人 2,341,400円－諸雑費 33,610円＝2,307,790円

※2 その他の収入：学会誌執筆超過分実費(第23巻)

※3 学協会サポートセンター委託料＋各種手数料

※4 学協会サポートセンター送料を含む

※5 学協会サポートセンター委託印刷費を含む

2011年度 工業経営研究学会補正予算 (2011年1月1日～12月31日)

収入の部	予算額	備考
会費収入	1,972,000	※1
著作権収入	20,000	
利息収入	4,000	
雑収入	30,000	※2

その他の収入	0	
小計	2,026,000	
前期繰越金	1,236,999	
計	3,262,999	

支出の部	予算額	備考
学会事務委託費	350,000	学協会サポートセンター
全国大会補助費	250,000	
地方部会補助費	75,000	
分科会補助費	40,000	
理事会費	80,000	
各種委員会業務費	60,000	
学会誌発行費	700,000	第25巻発行費
名簿作成積立金繰入	50,000	(累計額：100,000)
郵便通信費	200,000	会費・ニュースレター・工業経営研究等
賞典費	50,000	
事務局費	80,000	
振込費(銀行振込手数料)	10,000	
印刷費	80,000	ニュースレター印刷費
特別事業積立金繰入	150,000	
経営関連学会協議会年会費	30,000	
予備費	30,000	
小計	2,235,000	
次期繰越金	1,027,999	
計	3,262,999	

※1 会費納入者数は、実際の会員数×0.85(小数点切り捨て)

正会員：261×0.85≒222 院生会員：49×0.85≒42 法人会員：0

222名×8,000円=1,776,000 49×4,000=196,000

※2 雑収入：学会誌執筆超過分実費(第25巻)

北海道部会 活動報告

1. 研究会

・第2回研究会 平成23年1月29日(土) 14:30~17:40

於：北海学園大学 7号館 D101教室

1) 佐藤浩史(北海学園大学大学院博士課程) -----14:30~ (75分)

「国内市場における日米マーケティング活動の文化的差違

—医療機器メーカーにおける比較研究—

2) 横尾陽道(北星学園大学) -----15:55~ (75分)

「部門文化の多様性と組織の創造性」

・運営委員会 -----17:10~17:40

・懇親会 -----18:00~

2. 見学会

- ・工場見学会 平成 22 年 12 月 10 日（金）11:00～15:00
於：苫小牧市
 - 1) 光生アルミ北海道 -----11:00～（80 分）
 - 2) トヨタ自動車北海道 -----14:00～（60 分）

- ・運営委員会・懇親会 於：札幌北広島クラッセホテル
 - 運 営 委 員 会 -----17:00～18:00
 - 懇 親 会 -----18:00～

（参考）日本生産管理学会 北海道・東北支部と共催いたしました。

（ごあいさつ）

3 月末をもちまして、北海道部会では山本孝先生（道都大学）から大平義隆先生（北海学園大学）に部会長を交代いたします。これに伴い部会事務局も北海学園大学に交代することになりました。長い間お世話になりました。ありがとうございました。

東日本部会 活動報告

1. 研究会

日 時：2010 年 11 月 13 日（土） 13:30～19:40
会 場：明治大学 駿河台キャンパス 研究棟第 9 会議室
参加者：30 名

<プログラム>

(1) 開会の辞および会長挨拶（13:30～13:45）

鈴木東日本部会長より開会の挨拶が行われた。続いて、学会を代表して貫会長より会長挨拶が行われた。

(2) 研究紹介（13:45～16:55）

2008 年以降に工業経営研究学会に入会した会員および他部会からの転入会員を対象として、自己紹介を兼ねた研究紹介を行った。石田氏、井上氏、鎌田氏、田中氏、鄭氏、中島氏、貫真英氏、布施氏、山口氏、西岡氏の順番に研究紹介が行われ、フロアからの質疑応答や活発な議論が行われたため、当初の予定時間を 1 時間 20 分超過した。

(3) 特別講演（17:05～18:25）

- ・講師：三井一郎氏（コマツ顧問）

「日本の製造業は生き残れるか？—コマツのグローバルイゼーションを事例として—」
1 時間 5 分にわたりご講演いただき、続いてフロアからの質疑応答を行った。

(4) 全体討議「東日本部会のあり方」（18:25～18:40）

懇親会の会場設営の時間を利用して全体討議を行った。鈴木東日本部会長より、今後の東日本部会のあり方について次のような提起がなされた。

- ・ただ単に工場を見学するだけではなく、工場に提言を行えるような学会を目指すべきである。
- ・若い研究者の報告を聞くだけではなく、その内容について十分に討論を行いたい。そのためには、報告者一人あたり 90 分程度の時間を確保した研究会を目指したい。

- ・東日本部会としての成果として、ワーキングペーパーや出版物を発行することを目指す。
- ・東日本部会の幹事（事務局）の増員を図りたい。

また、東日本部会事務局担当の中島氏より 2009 年 9 月 2 日から 11 月 12 日までの東日本部会の収支報告がなされ、承認された。

(5) 懇親会（18:40～19:40） *会場は部会と同会場（第 9 会議室）

三井氏を含む 20 名で懇親会が行われた。名取氏の発声により乾杯が行われ、その後は終始和やかなムードで懇談が行われ、部会員相互の交流を深めた。最後に、開催校を代表して風間副会長より中締め挨拶が行われ、懇親会は閉会した。

2. 工場見学

期 日：3 月 11 日（金）午後 1 時～午後 3 時

場 所：牧野フライス製作所 厚木事業所

（参考）理事会との共同開催

*厚木事業所の工場見学を終えて会議室に戻った時、東日本大震災を引き起こしたマグニチュード 9.0 の大地震に遭遇した。厚木事業所は地盤の安定した場所を選んで建設したとのことであったが、かなり長い間横ゆれが続き、従業員が屋外に飛び出してきた。その後マキノジェイ工場（機械完成後に搬入し加工検証する工場）を見学する予定であったが、その時点で工場見学を打ち切り、失礼することにした。

中部部会 活動報告

1. 見学会

日 時：平成 23 年 2 月 18 日（金）10:00～13:00

見学先：トヨタ自動車 元町工場（組立工程、溶接工程）及びトヨタ会館

（参考）NPO 法人中小企業マネージャー育成塾との共催

グローバルイノベーション研究分科会 活動予定

今年の海外企業視察は、8 月 20 日（土）～27 日（土）まで、ベトナム・カンボジアの企業を訪問する予定です。

*問合せ先：作新学院大学 那須野公人 E-Mail：knasuno@sakushin-u.ac.jp

工業経営研究学会 学会通信 71 号（11-4） 2011.4.3

発行人 貫 隆夫 編集担当 那須野公人

学会事務局 明治大学 商学部 風間信隆

〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

明治大学駿河台研究棟 839 号室

E-Mail nobutaka@kisc.meiji.ac.jp

ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/asimj/index.html>